|  |  |
| --- | --- |
| 令和2年度（2020年度）用 | 小学校社会科用 |

|  |
| --- |
| 「新編 新しい社会3・4下」  **臨時休業明けの**  **年間指導計画参考資料**  **【4年】** |

【注】令和2年度の第4学年では，新課程教科書は供給されず，令和元年度の第3学年で供給されている3・4年の教科書と令和2年2月ごろに配布される補助教材※1を併用して指導します。こちらは，「新編 新しい社会3・4下」と補助教材を用いた，令和2年度第4学年の年間指導計画作成資料です。

令和2年度用教科書の採択で社会科教科書の変更があった場合，補助教材を使用する単元（「自然災害からくらしを守る」）においては，新たに採択された発行者作成の指導計画をご参照ください。

※1　補助教材は，社会科学習指導要領第4学年2内容(3)（自然災害からくらしを守る）の内容を学習することを目的として作成され，令和元年度に採択決定された発行者のものを使用することになっています。

※「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」の活動内容や時数は考えられる案を示しています。学校や地域の実態に応じてご参照ください。

※以下の案では，第4学年の総時数90時間のうち，14時間を「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」として提示しています。

東京書籍

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | わたしたちの県（オリエンテーション） | | | 教科書の  ページ | p.128～129 |
| 配当時数 | 1時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし） | 活動時期 | 4月 | 学習指導要領の内容 | (1)アイ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) オリエンテーション | | | | |
| ・知っている都道府県を地図帳でたしかめよう。  p.128～129 | 1 | ①日本全図の中で，学習経験や生活経験を生かして知っている都道府県を出し合い，それぞれの都道府県の名称や位置，特産品などに関心をもたせる。  ・自分たちの県のまわりには，特色のあるいろいろな都道府県が広がっている。  めあて　わたしたちが住む県の位置や特色，各地の人々のくらしについて，地図や資料を使って，調べてみましょう。 | ◆我が国が47の都道府県で構成されていることをおさえるようにする。  ◆児童の体験（食べたことがある特産品や行ったことのある場所など）を想起させたり，クイズ形式を導入するなどして，興味を喚起させたい。 | **※47都道府県の学習について，何を基に，どのように学習するのか，次時の①について説明をする。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 日本地図を広げて | | | 教科書の  ページ | p.130～135 |
| 配当時数 | 2時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間） | 活動時期 | 4月 | 学習指導要領の内容 | (1)アイ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1)(2) 日本地図を広げて | | | | |
| ・日本の都道府県について，それぞれの名前と場所を調べ，白地図にまとめてみましょう。  p.130～135 | 2 | ①教科書p.130～135の３つの日本地図や，特産品や地形などのテーマごとに整理されている47都道府県カードや地図帳などを活用して，各都道府県の名称と位置について調べ，白地図にまとめる。  ・47都道府県の名称と位置  わたしたちの県のほかにも，たくさんの都道府県があり，日本は47都道府県によって構成されている。 | ◆様々な場面において都道府県の名称と位置についての指導を効果的に行うために，都道府県名が書かれた日本地図や日本の白地図などを教室の見やすい位置に掲示しておきたい。 | 地図帳や教科書を活用し，教科書の都道府県カードや白地図に書き込むなどの活動を通して，47都道府県の名称と位置について学習する。【2時間】 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | １．県の広がり | | | 教科書の  ページ | p.136～149 |
| 配当時数 | 8時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 4～5月 | 学習指導要領の内容 | (1)アイ |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 都道府県の様子について，我が国における自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめ，県の様子を捉え，地理的環境の特色を考え，表現することを通して，自分たちの県の地理的環境の概要を理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①我が国における自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などについて地図帳や各種の資料で調べ，必要な情報を集め，読み取り，県の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や文などにまとめ，自分たちの県の地理的環境の概要を理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①我が国における自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，問いを見出し，県の様子について考え表現している。  ②県の位置や県全体の地形，主な産業，交通網や主な都市の位置などの情報を総合して県の地理的環境の特色を考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 日本の中の兵庫県 | | | | |
| ・つかむ　わたしたちの住む兵庫県について話し合って，学習問題をつくりましょう。  p.136～137 | 1 | ①自分たちの県や周囲の様子について確かめる。  ・ 兵庫県は近畿地方にある。  ・北は日本海，南は瀬戸内海に面している。  ・ 淡路島も兵庫県だ。  ②自分たちの県と接している県やつながり（交通の様子）について確かめる。  ・ 兵庫県は，東は大阪府，西は岡山県などと接している。  ・東西の府県と新幹線や高速道路で結ばれている。  ③グループごとに県のどんなことを調べたいのか話し合う。  ・ 土地の様子を調べてみたい。  ・ どのような産業があるかも調べたい。  学習問題　わたしたちの県の土地や交通の様子そして産業には，どのような特色があるのでしょうか。 | ◆わたしたちの住む県の位置や土地の様子を，地図帳で確認するようにする。  ◆グループごとに調べたいことを話し合い，学習問題をつくる。  ◆p.137側注を参考にして，調べることや調べ方，まとめ方を考えさせる。 |  |
| (2) 学習の進め方（p.6～7を参考） | | | | |
| ・学習問題をつくり，学習の進め方をかくにんしよう。  p.6～7 | 1 | ①前時の学習を想起して学習問題を確認し，今後の「学習の進め方」を把握する。  ＜「学習の進め方」＞  ・つかむ－学習問題をつくる  　→学習問題について予想する  　→調べることを明らかにする  ・調べる－みんなで協力して調べる  　→実際に見学に行って調べる  　→図書館で資料を探して調べる  　→インターネットで調べるなど  ・まとめる－調べてわかったことや考えたことをまとめる  　※まとめ方－ノート，カード，表などに，新聞などの作品づくり－メモや写真の活用  ・いかす－今までの学習を振り返りながら，自分にできることを考える  ②「学習の進め方」を基に学習計画を立てる。  　（例）  ＜予想＞  ・北から南へ土地が低くなっている。  ・人口の多いところは平野が広がっている。  ・交通は神戸を中心に広がっている。  ＜調べること＞  ・県の地形  ・県の土地利用  ・県の交通の広がり  ＜調べ方＞手紙で質問したり，図書館やインターネットを利用したりする。  ＜まとめ方＞ノートやカード，白地図などにまとめる。 | ◆問題解決的な学習の進め方について学ばせる。  ◆調べる内容だけでなく，調べ方やまとめ方についても指導する。 |  |
| （3）兵庫県の地形 | | | | |
| ・調べる　兵庫県は，どんな地形をしているのでしょうか。  p.138 ～139 | 1 | ①県の衛星写真や地勢図を見て，気づいたことを話し合う。  ・ 山地や日本海側に緑が多い。  ・ 山から瀬戸内海や日本海に向かって川が流れている。  ②県内のどこにどのような地形が広がっているのか調べる。  ・ 瀬戸内海に沿って平野が広がっている。  ・ 県の真ん中あたりに山が多い。  ③県の地形について，わかったことをノートに書く。  兵庫県の瀬戸内海に面している地域には，平野が広がっている。また，中央から北側の地域には，山地が広がっている。 | ◆衛星写真と地勢図とを比べて見るようにする。  ◆p.139「まなび方コーナー」を参考に，地勢図の読み取り方をおさえる。また，地勢図と断面図を比べることで，土地の高さと地形についてつかむようにする。 |  |
| （4）土地利用の様子 | | | | |
| ・調べる　地形によって，土地の使われ方は，どのようにちがうのでしょうか。  p.140～141 | 1 | ①土地利用図や写真を見て，気づいたことを話し合う。  ・ 氷ノ山にはスキー場がある。  ・ 淡路島のあわじ花さじきがきれい。  ②県内の土地利用の特色を，地形と結び付けて話し合う。  ・ 低地には市街地や田が広がっている。  ・ 市街地は瀬戸内海の海岸ぞいに多い。  ・ 山地には森林が多い。  ③土地利用について，わかったことをノートに書く。  兵庫県の瀬戸内海に面した低い土地には，市街地や田が広がっている。山地には，森林が多く広がっている。 | ◆土地利用図と場所の写真を見比べて，土地利用を読み取るようにする。  ◆p.140「まなび方コーナー」を参考に，土地利用図の読み取り方をおさえる。また，p.139の地勢図と見比べることで，県の土地利用の特色を考えるようにする。 |  |
| （5）兵庫県の市や町 | | | | |
| ・調べる　わたしたちの住む兵庫県には，どんな市や町があるのでしょうか。  p.142～143 | 1 | ①わたしたちの市が県内のどこにあるか調べる。  ・ 神戸市は，兵庫県の県庁所在地だ。  ・ 県の南の方にあり，人口がいちばん多い。  ②県内の主な市町村の名前，位置，人口などを調べ，白地図に整理する。  ・ コウノトリで有名な豊岡市は北部にある。  ・ 姫路城のある姫路市は瀬戸内海に面している。  ③主な市町村が，自分たちの市とどれくらいのきょりなのか調べる。  ・ 姫路市は神戸市から約50㎞の所にある。  兵庫県の県庁所在地は神戸市である。また，姫路市や豊岡市など，多くの都市がある。 | ◆県の白地図に自分たちの市を色塗りさせ，県内における位置を確認させる。  ◆p.143の縮尺による地図の違いを参考に，地図帳の縮尺を使って，主な市の距離を調べさせる。 |  |
| （6）交通の広がり | | | | |
| ・調べる　県内の交通は，どのように広がっているのでしょうか。  p.144～145 | 1 | ①県内の主な道路や鉄道の広がりを調べる。  ②港や空港の位置を，地図帳で確かめる。  ③陸，海，空の交通網の特色を話し合う。  ・ 神戸や姫路など主な都市を結ぶように，交通が発達している。  ・ 県内の東西への移動は，鉄道や高速道路が通っていて便利だ。  ・ 瀬戸内海沿岸は，飛行機，船，列車，自動車での交通網が広がり，便利だ。  兵庫県の南部には，新幹線や高速道路，空港や港が多くあり，交通が発達している。 | ◆地図帳で，鉄道，高速道路，空港，港を調べさせ，主な都市の分布との関係を考える。  ◆県庁所在地の神戸を中心に，多くの交通網が発展し，人やものの動きを支えていることに気づくようにする。  ◆県内ばかりでなく，他県との移動にも目を向けるようにする。 |  |
| (7) 兵庫県の主な産業 | | | | |
| ・調べる　わたしたちの県には，どんな産業があるのでしょうか。  p.146～147 | 1 | ①県内に，どんな産業があるのか調べる。  ・ 淡路と明石の海でいかなごやたこが多くとれる。  ・ 三木市では，お酒の原料となる山田錦という米の生産がさかんだ。  ・ 姫路には鉄をつくる大きな工場がある。  ②調べたことを，産業マップの作品にする。  ③ホームページを開いて，産業マップを発表する。  兵庫県内では，各地域の自然条件に合わせた様々な産業がある。また，伝統的な産業も多い。 | ◆県の産業振興課などからパンフレットを取り寄せたり，インターネットで調べたりする。  ◆p.147「まなび方コーナー」を参考に，調べたことを地図にして表現し，ホームページを開く。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②について説明をする。** |
| (8) 県の特色をまとめる | | | | |
| ・まとめる　調べたことをもとに，兵庫県の特色を地図にまとめてみましょう。  p.148～149 | １ | ①これまで調べてわかったこと（カード）を地図に表す。  ・ 地形の特色  ・ 土地利用の特色  ・ 交通の特色  など  ②地図から，地形と土地利用のかかわりや交通と産業のかかわりなどについて話し合う。  ・瀬戸内海に沿った平野に大きな都市が多い。  ・大きな都市と都市を結ぶように交通網が発達している。  ・交通網が発達している大都市は，工業が盛んである。  など  県（都，道，府）には，特色ある地形とそれらを生かした様々な産業がある。また，主な都市は平地を中心に分布し，それらを結ぶように交通網が広がっている。 | ◆今までの学習で作成してきた学習カードを活用して，効率よく地図にまとめるようにする。  ◆学習問題を確認し，p.148「ことば」を使って，まとめるようにする。  ◆地形と土地利用のかかわりや交通と産業のかかわりなど，関連する項目について視点を与えながら考えるようにする。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，これまでの学習で作成したカードをもとに，県の特色を白地図などに書き込んでまとめるとともに，県内の地形と土地利用の関わりや交通と産業の関わりなどについて，考えたことをノートに書く。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 住みよいくらしをつくる（オリエンテーション） | | | 教科書の  ページ | p.54～55 |
| 配当時数 | 1時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 5月 | 学習指導要領の内容 | (2)アイ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) オリエンテーション | | | | |
| ・だれが何をしているか，絵を見て考えてみましょう。  p.54～55 | 1 | ①教科書のイラストを見て，まちの中で，住みよいくらしをつくるためのしくみや人々の働きをさがし，これらの事業について話し合う。  ・まちには，水道やごみの処理などにかかわる仕事をする人がいるから生活できる。  めあて　わたしたちのまちの健康で住みよいくらしをささえているしくみや人々の働きを調べてみましょう。 | ◆キャラクターのセリフから，働いている人に注目させる。 | 教科書のイラストを見て，水道やごみ処理の事業にかかわると思う場面をそれぞれすべてノートに書きだし，気づいたことや疑問に思ったことを書く。【1時間】 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | １．水はどこから | | | 教科書の  ページ | p.56～75 |
| 配当時数 | 11時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間） | 活動時期 | 5～6月 | 学習指導要領の内容 | (2)ア-(ｱ)(ｳ)，イ‐（ｱ） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 飲料水を供給する事業について，供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ，飲料水の供給のための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え，表現することを通して，飲料水を供給する事業は，安全で安定的に供給できるよう進められていることや，地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や，学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，飲料水の供給のための事業の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や図表，文などにまとめ，飲料水を供給する事業は，安全で安定的に供給できるよう進められていることや，地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などに着目して，問いを見出し，飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。  ②飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付け，飲料水の供給のための事業の果たす役割を考えたり，学習したことを基に，節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①飲料水を供給する事業について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。  ②学習したことを基に，節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 生活の中での水の使われ方 | | | | |
| ・つかむ　わたしたちは，水をどのように使っているのでしょうか。  p.56～57 | 1 | ①写真を見て，生活の中で水を使う場面を発表し合う。  ・学校の流し場で手を洗う。  ・米づくりなど農業で利用する。  ・工場でも使う。  ②市の人口の変化のグラフと，市の給水量の変化のグラフをくらべる。  ・市の人口が増え続けている。  ・給水量は増えている。  ・ところが，ある時期から給水量の増え方が小さくなり，最近では給水量が減っている。  水は，生活や産業のいろいろな場面で使われる大切な資源であり，市の人口の増加とともに給水量も増えている。 | ◆生活の中で水を使う場面を想起させ，自分たちの生活には水が大量に必要なことに気づかせる。  ◆市の人口の変化のグラフと，市の給水量の変化のグラフをくらべさせ，一方が増え続けているのに，片方は最近減っていることに着目させる。 | 生活の中で水を使う場面について，教科書を見て気づいたことや，自身の生活経験をもとに知っていることや疑問に思ったことをノートに書く。【1時間】 |
| (2) 水のじゅんかんについて考える | | | | |
| ・つかむ　水のじゅんかんについて考え，学習問題をつくりましょう。  p.58～59 | 1 | ①水の循環の概念図を見て，わかったことや疑問に思ったことを話し合う。  ・水は山から町を通って海まで流れていく。  ・水は川だけでなく地下でも流れている。  ・水は，海で水蒸気になった後，雨になって降る。  ②水道メーターを観察して疑問に思ったことを話し合う。  ・水道管の先には何があるのかな。  ・水道メーターの水道管はどこで川とぶつかるのかな。  ③考えたことをもとに，学習問題をつくる。  ④学習問題について予想し，調べること・調べ方・まとめ方について話し合う。 | ◆水の循環の概念図をよく読み取らせることで，水は何回も繰り返して使うものであることに気づかせる。  ◆何回でもきれいにして使えるから無駄遣いしても大丈夫という発言がでても，否定しないようにし，小単元全体を通して学習させるようにする。参考までに，「地球の水の量をお風呂一杯分とすると，人間が使える水はスプーン一杯に過ぎない」と言われている。  学習問題　わたしたちの生活に欠かせない水は，どこでどのようにしてつくられ，送られてくるのでしょうか。 |  |
| (3) 水のふるさと | | | | |
| ・調べる　わたしたちの学校や家までやってくる水のふるさとは，どこにあるのでしょうか。  p.60～61 | 1 | ①岡山県の地図から，旭川の源流がどこにあり，どこに流れ込んでいるのかを調べる。  ・上流には，湯原ダム，大山，蒜山，新庄村，真庭市などがある。  ・岡山市を通って，瀬戸内海に流れ出ている。  ②「新庄村役場の山田さんの話」を読んで，わかったことを話し合う。  ・木を育てるには何十年もかかる。  ・水源の森に降った雨はゆっくりと地下にしみこみやがてわき出す。  ・森林のある山には，豊かな栄養を含み澄んだおいしい水を生み出す力がある。  水源の森が，豊かで美しい水をつくり出し続けられるように，岡山市の水道局や川の上流の村役場などが水源の森を守る取り組みをしている。 | ◆旭川の流れを確認するために，川を赤鉛筆で塗るなど，見やすく確認しやすい工夫をするとよい。  ◆岡山市の水道局や，上流の村役場がわざわざ木を植えたり，山を見回ったりする理由を考えさせるようにする。 |  |
| （4） ダムの働き | | | | |
| ・調べる　ダムには，どのような働きがあるのでしょうか。  p.62～63 | 1 | ①湯原ダムのある場所（蒜山高原）と岡山市の場所を地図（p.60）で確かめ，資料２と３のグラフをくらべてわかったことを話し合う。  ・岡山県では，上流の方が雨の降る量が多いので，上流にダムをつくったんだ。  ・岡山市は，雨の降る量が少ないから，水が足りなくなるのではないかな。  ②資料４の「岡山県のダム」の分布図から，どのような場所にダムがあるかを読み取る。  ・上流や山の多いところにダムがある。  ・旭川以外の高梁川，吉井川にもダムがある。  ③「湯原ダムの横山さんの話」から，ダムで働く人々の気持ちを読み取る。  ・湯原ダム付近の美しい水が，ずっと下流の岡山市まで流れ続けてほしい。  ダムは，水源の森から流れ出た水を蓄え，川の水量に応じて計画的に放水したり，発電をしたりする機能がある。 | ◆降水量が少ない岡山市の給水を止めないために，降水量が多い上流にダムを建設して貯水している点を読み取れるように支援することが大切である。  ◆旭川以外の大きく長い河川である高梁川，吉井川にもダムがあることに気づかせて，岡山県全体が飲料水の確保の努力をしていることに気づかせる。 |  |
| （5）（6）　きれいな水をつくるために | | | | |
| ・調べる　じょう水場では，どのようにして，水をきれいにしているのでしょうか。  p.64～65 | 2 | ①資料２の三野浄水場の写真を見てわかったことを話し合う。  ・川の近くにある。  ・プールのような物が多く並んでいる。  ・周囲の建物とくらべるとかなり広い。  ②p.65上の「水がきれいになるまで」の資料から，川の水を飲料水にするまでの流れを読み取る。  ・川の水の中にある土や砂，ごみを取り除く。  ・薬も入れる。  ・コンピューターも使って水の管理をする。  ③p.65「じょう水場の大谷さんの話」を読んでわかったことをまとめる。  ・浄水場をつくった理由は，昔，川や井戸の水を飲んで，病気でなくなった人がいて，市民の健康を考えたからだ。  浄水場には，川の水をきれいにする浄水機能があり，そこで働く人々は，様々な工夫や検査をしながら，市民に飲料水などを提供している。 | ◆浄水場にある大きなプールのような施設には，それぞれに役割があって，水の浄化に役立っていることを気づかせる。  ◆歴史的に見ると，浄水場の建設は，市民の健康なくらしを維持することが目的の一つであった点に着目させる。 |  |
| （7）安全でおいしい水をつくるために | | | | |
| ・調べる　安全でおいしい水をとどけるために，働く人は，どんなことに気をつけているのでしょうか。  p.66～67 | 1 | ①「水質試験所の小倉さんの話」を読んで，わかったことを発表し合う。  ・浄水場から送る水に，濁りやばい菌がないか検査をしている。  ・検査には新しい機械も使っている。  ・検査は，「水道法」という法律の基準にそって行っている。  ②浄水場から，家庭，学校などに水を届ける仕組み（資料４）や，資料５～７を見て，水道で働く人々が努力していることを読み取る。  ・配水池から太い水道管でまちまで水を送る。  ・太い水道管から細い水道管を通って，各家庭や学校に水を送る。  ・水漏れ検査や，水道管の工事など様々な努力を普段からしている。  浄水場では，安全でおいしい水をつくるために，いろいろな工夫をしている。また，配水池や水道管などの水を送るしせつを整備することも大切である。 | ◆浄水場では，川の水から土・砂・ごみなどを取り除くだけでなく，濁りやばい菌も取り除き，安全な水をつくり続けていることに気づかせる。  ◆浄水場でつくったきれいで安全な水を各家庭や学校などに送り届けるために，配水池など関連設備の維持管理や，漏水検査，水道管の取り替えなど，水道局の人々が様々な仕事に取り組んでいることに気づかせる。 |  |
| （8）大切な水をくり返し使うくふう | | | | |
| ・調べる　わたしたちは，かぎりある水を，どのように使っているのでしょうか。  p.68～69 | 1 | ①家庭や学校で使った水は，どこに行くのか予想をして話し合う。  ・そのまま川や海に流すと，川や海が汚れてしまうよ。  ・きっと，水をきれいにする施設があるんだよ。  ②資料２，３の写真とことば「下水しょり場」を見て，建部浄化センターと，岡東浄化センターの水のゆくえを考える。  ・建部浄化センターできれいになった水は旭川を下って，下流の岡山市の三野浄水場できれいにされる。  ・上流の地域の下水はきれいにされて，下流の地域の水道水になる。  ・水は，何度もきれいにされて使われる。  ③岡山市の競技場の説明（資料５）を読んで，水を無駄遣いしない方法を考える。  ・トイレや水まきには，雨水を蓄えて使っている。  川の上流や中流で使われた水は，下水しょり場できれいにされて川に流され，下流の浄水場をへて再利用されている。 | ◆上流の地域の下水がきれいにされて，下流の地域の水道水になることや，水は何度でもきれいにされて使われることを気づかせることを通して，社会全体が，資源としての水を大切にするための設備をつくり管理する意味を考えさせるようにする。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②③について説明をする。** |
| (9) 水の流れをまとめる | | | | |
| ・まとめる　水がどのようにして送られてくるのかをまとめてみましょう。  p.70～71 | 1 | ①学習問題を確認した上で，六つのことばを使って，水が送られてくるまでの図に，説明の文を考えて書き入れる。  ・水源の森：水源の森は，雨水を蓄えて，きれいにしてゆっくりとわき水を出します。  ・ダム：ダムは，川の上流にふった雨をためておいて，川の水が少ないときに，放水して下流に水を流します。  （以下略）  ②まとめができあがったら，友だちと見せ合ったり発表し合ったりして，よりよい表現に修正をする。  ③いろいろな場所を比較して，その特色を話し合う。  飲料水を確保するための対策や事業は，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っている。 | ◆今まで学習した教科書の資料や，ノートの記述などを見直させて，それぞれの働きを説明するのにふさわしい文章を書くように助言する。  ◆記入する順序は問わず，各自が書きやすい所から書かせるようにする。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，水が送られてくるまでの図に説明の文を書き入れ，水の循環について考える。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |
| (10) 旭川の源流をたずねて | | | | |
| ・いかす　旭川の上流の地いきの人々と交流して，川のかんきょうについて考えましょう。  p.72～73 | 1 | ①エコツアーの写真を見て，何をしているのか発表する。  ・川遊びをしている。  ・川で魚や沢がにをとっている。  ②公民館の館長さんの話を読み，エコツアーを行っている理由を考えて話し合う。  ・水の環境や森林の役割を知ってもらうために行っているのではないかな。  ・身近な地域や地球の環境のことを考える取り組みを行っている。  ③「旭川源流の碑」（資料３）の写真を見て，この碑は何のために立てたのか，考えて話し合う。  ・旭川の源流の一つを記念して立てた。  ・源流としてわかりやすいように立てた。  ④次の時間に調べることを伝える。  川の上流・中流・下流のどこでも水とくらしには様々なつながりがあり，旭川を保全している人々がいる。 | ◆p.63湯原ダムの横山さんの「湯原ダム付近の美しい水が，ずっと下流の岡山市まで流れ続けてほしい」という言葉を想起させて，上流の村の人たちは，実際に川の環境を考えて森林の整備などをしていることに気づかせる。  ◆旭川源流の碑を立てた理由を考えさせることによって，旭川にかかわる人々の思いに関心を持たせる。 |  |
| (11) きれいな川をつなげるために | | | | |
| ・いかす　旭川を大切に思って行動している人たちの活動を調べてみましょう。  p.74～75 | 1 | ①「『旭川源流の碑』を運ぶ」（資料１）の写真を見て，前時の碑を立てた理由も考えて話し合う。  ・上流の山で育った木から，下流で碑をつくり，再び源流に運んで，源流の碑を立てている。  ・源流は，旭川の上流から下流まで，いろいろな場所にある。  ②「旭川流域ネットワークの竹原さんの話」を読んで感想を話し合う。  ・上流と下流の人々のかかわりができるのが良い。  水は川の上流から下流まで様々な地域で使うものだから，大切に使う必要がある。また，世界的な規模で見ると，きれいな水を使用できる人々はわずかにすぎない。 | ◆旭川の上流と下流の人々のかかわりが生まれ，相互に関心を持つようになることに着目させる。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 2．ごみのしょりと利用 | | | 教科書の  ページ | p.80～99 |
| 配当時数 | 12時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 6～7月 | 学習指導要領の内容 | (2)ア-(ｲ)(ｳ)，イ‐（ｲ） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 廃棄物を処理する事業について，処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ，廃棄物の処理のための事業の様子を捉え，その事業の果たす役割を考え，表現することを通して，廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や，学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や図表，文などにまとめ，廃棄物を処理する事業は，衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，問いを見出し，廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。  ②廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け，廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり，学習したことを基に，ごみを減らすために，自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①廃棄物を処理する事業について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。  ②学習したことを基にごみを減らすために，自分たちが協力できることを考えようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) ごみを分別する | | | | |
| ・つかむ　家では，ごみをどのように出しているでしょうか。  p.80～81 | 1 | ①家庭のごみの出し方を話し合う。  ・ごみを種類ごとに分けて出している。  ・ごみの種類によって，出す日が違う。  ・どうしてごみを分けて出しているのかな。  ②種類別のごみの量のグラフから考えたことを話し合う。  ・燃えるごみが一番多い。  ・ごみの分別は大変だけど，とても大切なことだと思う。  ごみは，分別して出されている。 | ◆ごみの分別に気づかせるとともに，なぜ種類別に出すのかに疑問を持たせる。  ◆燃えるごみを中心に，出されるごみの量が多いことから，分別が必要であることに気づかせる。 | 家庭のごみの出し方について，教科書を見て気づいたことや，自身の生活経験をもとに知っていることや疑問に思ったことをノートに書く。【1時間】 |
| (2) ごみ置き場の様子 | | | | |
| ・つかむ　家から出されたごみは，どのようにしゅう集されるのでしょうか。  p.82～83 | 1 | ①ごみ置き場を見学して，気づいたことを発表し合う。  ・看板には，ごみを出す時に注意することが書いてある。  ・種類ごとに出す曜日が決まっている。  ・ごみの出し方には細かいきまりがある。  ごみは，様々なきまりによって収集されている。 | ◆ごみ置き場の看板に書かれているきまりを読み取らせる。  ◆収集作業員の人の話から，分別が必要であること，分別を守らない人がいることなどに気づかせる。 |  |
| (3) ごみのゆくえ | | | | |
| ・つかむ　ごみのゆくえを考えることを通して，学習問題をつくりましょう。  p.84～85 | 1 | ①ごみのゆくえを考えながら，学習問題をつくる。  ・収集されたごみはどのように処理されるのだろうか。  ・ごみの収集には，収集車やトラックが利用されている。  ・燃えるごみと粗大ごみとでは，収集車も処理場も違うと思う。  学習問題　分別して出され，しゅう集されたごみは，どのようにしてしょりされるのでしょうか。  ②学習計画を立てる。  ・清掃工場を見学して，燃えるごみの処理の仕方について調べてみたい。  ・調べたことはノートにしっかりとまとめることが必要だ。 | ◆収集されたごみがどこにどのように運ばれるのかを，種類別に考えさせる。  ◆学習問題をつくる，学習問題について予想する，学習計画を立てるという，問題解決的な学習の過程を辿らせる。 |  |
| （4）(5)もえるごみのゆくえ | | | | |
| ・調べる　せいそう工場では，ごみをどのようにもやしているのでしょうか。  p.86～87 | 2 | ①清掃工場を見学して，わかったことをノートに整理する。  ・燃えるごみは清掃工場に運ばれる。  ・大きなクレーンや焼却炉がある。  ・１日に約270トンのごみを燃やしている。  ②燃やした後に残った灰のゆくえについて話し合う。  ・別の場所に埋め立てられるのではないかな。  ・再利用されるのではないかな  清掃工場では，いろいろな機械や設備を使って，ごみを燃やしている。 | ◆見学だけでなく，清掃工場の人の話や，入手したパンフレットなどから，清掃工場のしくみを総合的に理解させる。  ◆清掃工場はごみを燃やすだけでなく，発電や無害化などにも配慮していることに気づかせる。 |  |
| （6） もやした後のくふう | | | | |
| ・調べる　ごみをもやした後のくふうには，どのようなものがあるでしょうか。  p.88～89 | 1 | ①ごみを燃やした後の灰がどのように処理されるかを調べる。  ・処分場に埋め立てられる。  ・処分場には環境に配慮した様々な工夫がある。  ②ごみを燃やした時の熱をどのように利用しているかを調べる。  ・温水プール  ・温泉  ごみを燃やしたときに出る灰や処理熱は，適切に処理されたり，有効に利用されたりしている。 | ◆ごみを燃やした後の灰は，環境に配慮して，安全に埋め立てられていることに気づかせる。  ◆灰の再利用や焼却熱の有効活用は計画的に行われ，地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることに気づかせる。 |  |
| （7）（8）ごみが生まれ変わる | | | | |
| ・調べる　しげん物やそ大ごみは，どのように再利用されているのでしょうか。  p.90～91 | 2 | ①資源物や粗大ごみのリサイクルについて，リサイクル施設を見学して調べる。  ・びんやペットボトルはリサイクル施設に運ばれる。  ・資源物の選別はとても大変だ。  ・ペットボトルは服や再生ペットボトルになって生まれ変わる。  ②身のまわりにリサイクルがないかを考え，発表して話し合う。  ・自転車  ・服  ・タンス  資源物や粗大ごみは再利用され，資源の節約に役立っている。 | ◆リサイクル施設の見学や調査を通して，ごみを資源化することは資源の有効利用につながることを考えさせる。  ◆身のまわりのリサイクル品について話し合わせて，リサイクルが身近な活動であることを考えさせる。 |  |
| （9）ごみしょりがかかえる問題 | | | | |
| ・調べる　ごみしょりがかかえる問題を，市はどのように計画的にかいけつしようとしているのでしょうか。  p.92～93 | 1 | ①「ごみのしょりのうつり変わり」のイラストと，「市の人口の変化」のグラフを関連付けて，考えたことを発表し合う。  ・昔は，ごみを燃やしたり埋めたりしていた。  ・ごみの処理にかかわる問題について，市は計画的に取り組んでいる。  ・分別が始まったから，ごみの量も減ってきている。  ②ごみの処理が抱える新しい問題について調べ，わかったことを発表し合う。  ・分別に協力しない人がいる。  ごみの処理についての問題を，市は計画的に解決しようとしている。 | ◆市の人口が増えているのに，ごみの量が減っているのは，分別というごみの出し方が有効に働いていることに気づかせる。  ◆ごみの処理にかかわる新しい問題を解決していくためには，市の計画的な対策や事業が必要であることを考えさせる。 |  |
| (10) グループでまとめる | | | | |
| ・まとめる　ごみのしょりについてわかったことや考えたことをカードにまとめ，発表してみましょう。  p.94～95 | 1 | ①「まなび方コーナー」の手順にしたがって，これまでの学習でわかったことや考えたことを発表し合う。  ・リサイクルはとても大切なことだ。  ・ごみを減らすことがまず必要だ。  ・自分にできることはあるのだろうか。  ②自分の考えをノートにまとめる。  ・ごみの処理にはいろいろな工夫がある。  ・ものを大切にすることがごみの減量につながる。  ごみを処理するための様々な取り組みは，計画的・協力的に進められ，地域の人々の住みよいくらしをつくるために役立っている。 | ◆「【２】学習した内容をまとめる」場面では，「わかったこと」と「考えたこと」の二つの観点からまとめさせる。  ◆「【４】自分の考えをまとめる」場面では，「【３】発表する」の場面を通じて考えたことをまとめるように指示する。 | ※対話的な活動を組んでいるため，まとめの時間であるが授業で行う。 |
| (11) ごみしょりのくふう | | | | |
| ・いかす　ごみをへらすために，わたしたちのまわりでは，どのような取り組みが行われているのでしょうか。  p.96～97 | 1 | ①ごみを減らすために，家庭・学校・商店・地域がそれぞれどのような取り組みを行っているかを調べ，発表し合う。  ・家庭では，ごみの分別をしている。  ・学校では，ごみの減量に努めている。  ・商店では，エコバッグの利用を勧めている。  家庭・学校・商店・地域の人々は，ごみ処理について様々な工夫に取り組み，協力して住みよいくらしをつくろうと努力している。 | ◆家庭・学校・商店・地域ごとに取り組みの内容が異なることを意識させながら，それぞれの取り組みをまとめさせる。  ◆家庭・学校・商店・地域のごみの処理の対策や事業は，関連し合って進められていることに気づかせる。 |  |
| (12) 自分にできることを考える | | | | |
| ・いかす　ごみをへらすために，自分にできることを考えてみましょう。  p.98～99 | 1 | ①ごみを減らすために自分にできることを考え，発表し合う。  ・お手伝いで買い物をするときには，エコバッグを使いたい。  ・学校のごみの分別に協力したい。  ・家でごみの分別をするときには手伝いたい。  ごみを減らすために，自分にできることを考えることが大切である。 | ◆これまでの学習をふまえ，自分にできることを考えさせるようにする。  ◆自分にできることが本当にごみの減量に役立つのかどうかを考えさせるために，誰に協力するのか（質問１），どのように協力するのか（質問２）を意識させるようにする。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 自然災害からくらしを守る（オリエンテーション） | | | 教科書の  ページ | 補助教材※ |
| 配当時数 | 1時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし） | 活動時期 | 9月 | 学習指導要領の内容 | (3)アイ |

※この単元は，令和2年2月ごろに配布される補助教材をご使用ください。補助教材は，令和2年度から新課程用として採択された教科書会社のものが配布される予定です。令和2年度用教科書の採択で社会科教科書の変更があった場合，当該の発行者作成の指導計画をご参照ください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) オリエンテーション | | | | |
| ・わたしたちが住んでいる県では，どのような自然災害が起きてきたのでしょうか。 | 1 | ①わたしたちの住んでいる静岡県の地形と自然災害の様子を確かめ，気づいたことや考えたことを発表し合う。  ・静岡県は山があって海に面してもいる。  ・だから自然災害も多いのかな。  ・いつ起きるかわからない地震にはどんな取り組みをしているのか。  めあて　地震から人々を守る活動について，調べてみましょう。 | ◆日本全体における静岡県の位置を確認する。  ◆地形の豊富さ＝自然災害の多さに目を向けさせる。  ◆地震災害の多さに着目させる。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | １．地震からくらしを守る | | | 教科書の  ページ | 補助教材※ |
| 配当時数 | 9時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 9～10月 | 学習指導要領の内容 | (3)ア‐(ｱ)(ｲ)，イ‐(ｱ) |

※この小単元は，令和2年2月ごろに配布される補助教材をご使用ください。補助教材は，令和2年度から新課程用として採択された教科書会社のものが供給される予定です。令和2年度用教科書の採択で社会科教科書の変更があった場合，当該の発行者作成の指導計画をご参照ください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 自然災害から人々を守る活動について，過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ，災害から人々を守る活動を捉え，その働きを考え，表現することを通して，地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，さまざまな備えをしていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や，日頃から必要な備えをするなど，自分たちにできることを考えようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などについて，聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，災害から人々を守る活動を理解している。  ②調べたことを年表や図表，文などにまとめ，地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，さまざまな備えをしていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，問いを見出し，災害から人々を守る活動について考え表現している。  ②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて，その働きを考えたり，学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し，日頃から必要な備えをするなど，自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①自然災害から人々を守る活動について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。  ②学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し，日頃から必要な備えをするなど，自分たちにできることを考えようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 地震が起きたら | | | | |
| ・つかむ　地震によって，どのようなことが起きるのでしょうか。 | 1 | ①自分たちの住んでいる静岡県では，過去にどのような地震災害が起こったか知っていることを発表する。  ・伊豆半島沖地震は大きかったとお父さんが言っていた。  ②地震災害年表でもたしかめてみる。  ・東南海地震というものもある。  ・こうしてみると静岡県は地震が多いね。  ③写真や地図を見て気づいたことを話し合う。  ・建物が壊れて，道路にひびが入っている。  ・火事も怖いけど津波も怖いよね。  ・どのような対策をしているのだろう。  静岡県や浜松市では，過去に大きな地震が発生しており，近年にも大地震の発生する確率がきわめて高い地域である。そのための対策や協力は欠かせない。 | ◆県内で過去に起きた地震について目を向けられるように，年表や写真などを準備しておく。  ◆地震で起こる二次被害（火事や津波），自衛隊が働く様子から連携体制などをおさえておく。 |  |
| (2) 地震とわたしたちのくらし | | | | |
| ・つかむ　地震によって，わたしたちのくらしはどうなるかを考え，学習問題をつくりましょう。 | 1 | ①前時と本時の写真を見て，地震が自分たちのくらしに与える影響や気づいたことについて話し合い，疑問から学習問題をつくる。  ・家や建物が壊れて住めない。  ・学校の体育館に多くの人が避難して生活しているのをテレビで見たことがある。  ・自分たちだけではどうしようもない。  学習問題　地震からくらしを守るために，だれがどのようなことをしているのでしょうか。  ②地震が起きる前と起きた後で，だれが，どのような，に着目して予想を立て，学習計画を立てる。 | ◆大きな地震がひとたび来ると甚大な被害が各方面に起こることに気づかせる。  ◆一人の力ではどうしようもないこと，そのためにはどうすればよいかを考えさせる。  ◆避難所生活については，まとめの学習にもつながってくるので関心を持たせておく。 |  |
| (3) 家庭でそなえているもの | | | | |
| ・調べる　家庭では，どのような取り組みをしているのでしょうか。 | 1 | ①家庭では地震に備えてどのような取り組みをしているか，調べてきたことをカードに書いて話し合う。  ・避難用のリュックを準備している。  ・転倒防止の金具をたんすや食器棚につけている。  ②書いたカードを，地震が起こる前の準備や備え，起きた後の協力や対策について分けてみよう。  ・避難用のリュックは準備。  ・災害用伝言ダイヤルは対策。  ・準備と対策が大切だね。  家庭では，地震に備えて避難リュックや転倒防止などの準備をしたり，災害用伝言ダイヤルや避難場所を確認したりするなどの対策をしている。 | ◆あらかじめ宿題などで家でインタビューをさせておくとよい。  ◆挿絵や写真を見ながら話し合わせ，それ以外のものがあればどんどん出させる。  ◆起きる前の準備と起きた後の対策という視点は今後も大切なのでおさえておく。 |  |
| （4） 学校や通学路でそなえているもの | | | | |
| ・調べる　学校や通学路では，どのような取り組みをしているのでしょうか。 | 1 | ①学校や通学路ではどのような準備や対策をしているか，調べてわかったことを起きる前と起きた後に分けて発表し合う。  ・避難訓練をしている。  ・通学路にも防災倉庫がある。  ・公園のブランコがテントになるらしい。  ②前時の家庭でそなえていることについての学習と比べて，似ているところや違うところを話し合う。  ・起きる前の準備と起きた後の対策をしているところは同じ。  ・学校は人数が多いので避難訓練を何度もしたり，多くの食料を準備したりしなければならない。  学校や通学路では，地震に備えて避難訓練をしたり，防災倉庫を設置したり，広域避難地域を定めたりしている。 | ◆家での調べ活動や分類の仕方を，本時の学校や通学路の学習に生かすようにする。  ◆準備や対策にも気づかせる。  ◆家の学習と比較し，その規模や大きさに気づかせ，さらに大きな規模となる市全体に目を向けさせる。 |  |
| （5） 市の取り組み | | | | |
| ・調べる　市役所では，どのような取り組みをしているのでしょうか。 | 1 | ①浜松市ではどのような準備や対策をしているか，調べてわかったことを災害が起きる前と起きた後に分けて発表し合う。  ・防災計画を立てている。  ・大きな防潮堤を建設している。  ②津波の被害が予想される地域では，どのような準備や対策が取られているか考えたことを話し合う。  ・少しでも高台に避難できるように津波避難ビルがある。  ・津波から身を守るための避難方法を示すパンフレットも見たことがあるよ。  浜松市では，大地震による津波の発生に備えて，防潮堤を築いたり，ホームページやパンフレットを作成したり，避難場所と津波避難ビルの指定を行ったりしている。県や国ともすぐに連絡が取れるようにしている。 | ◆市の防災課などに連絡を取り，直接話を聞いたり，質問を受けてもらったりできるとよい。できない場合は，事前に連絡を取り，話を聞いておいたり，調べたりできるような資料を準備しておく。  ◆市全体では，より大きな規模での準備や対策が取られていること，もしもの場合はさらに大きな県や国とも連携がとられることなどをおさえておく。  ◆特に東日本大震災を教訓として，海沿いの地域の津波対策は必須であり，地域それぞれの対策を行っていることなどに目を向けさせる。 |  |
| （6） 市と住民の協力 | | | | |
| ・調べる　市と住民は，どのような取り組みをしているのでしょうか。 | 1 | ①浜松市と地域住民の連携について，調べてわかったことを話し合う。  ・市役所の人と地域の代表の人が話し合いをしている。  ・市役所の人と一緒に避難行動計画を立てている。  ②浜松市と地域住民の準備や対策について，インタビューやパンフレット，ホームページなどからわかることを発表し合う。  ・ハザードマップをつくるときは地域の人の意見が大切。  浜松市では，大地震が起きたときに備えて，地域の人々も参加して避難行動計画を立て，地域の人々が協力して避難訓練に取り組んでいる。 | ◆そもそも，浜松市と地域住民が大規模地震に際して，どのように考えているのかを調べ，共通の土台に立つようにする。  ◆市も地域住民の意見を聞きたい，地域住民も市の力や助けが必要，というどちらにとってもよい関係であることをおさえる。  ◆地域によって，地形も違い立地条件も違うので，自分たちの市や町のハザードマップを必ず確認する。 |  |
| （7） 住民どうしの協力 | | | | |
| ・調べる　住民どうしでは，どのような取り組みをしているのでしょうか。 | 1 | 1. 住民どうしが協力してつくっている地域の防災組織について調べ，わかったことや考えたことを発表し合う。   ・地域には自主防災隊という自主防災組織がつくられている。  ・自主防災隊はなぜつくられたのだろう。  ②自主防災隊について調べてわかったことを整理する。  ③自主防災隊を機能させるために，日頃から自分たちが地域でできることについて話し合う。  ・隣にどんな人が住んでいるか確かめる。  ・防災倉庫の中身を一緒にたしかめておく。  浜松市には，自主防災隊という災害時に住民どうしが助け合って地域を守る組織がある。市では，この組織と協力して地域を守る活動を行っている。 | ◆自主防災組織という組織について知っていることや調べてわかったことを出し合い，自主防災組織の理解を深める。  ◆自主防災隊の役割について教科書などで調べさせる。  ◆共助の役割について考えさせる。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②③について説明をする。** |
| (8) 地震からくらしを守る取り組みをまとめる | | | | |
| ・まとめる　地震からくらしを守るための，家庭や学校，市や地いき住民の取り組みについて，まとめてみましょう。 | 1 | ①家や学校，市や地域の取り組みについてわかったことや考えたことをカードに書く。  ②それぞれの取り組みについてカードを整理して比べてみる。  ・どの立場でも地震が起こる前は準備が大切。  ・自助と共助で何日間か持ちこたえなければならない。  ・大きな工事は役所や国に頼まないといけない。  ③学習問題について考えたことを話し合う。  ・自分たちにできることは何だろう。  地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し，様々な協力をして対処してきた。また，今後想定される災害に対し，様々な備えをしている。 | ◆学習問題にもう一度立ち返らせて解決へと導く。  ◆ノートを振り返らせ，各時間のポイントを発表させる。  ◆立場は違っても共通していることを抽出する。  ◆立場の違いによる役割の違いをはっきりさせる。  ◆自助・共助・公助などの役割や共通すること，相違点などを比べながら考えさせる。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，地震からくらしを守るための，家庭や学校，市や地域住民などの取り組みについて，カードにまとめる。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |
| (9) ひなん所シミュレーション | | | | |
| ・いかす　地震が起きて，学校がひなん所になった場合，自分はどうするか考えてみましょう。 | 1 | ①地震からくらしを守るために，自分たちにできることを考える。  ・自分でできること，やるべきことがある。  ②「避難所シミュレーション」をみんなでやってみる。  ・どうしてこれを選んだか理由が大切。  ・いろいろな考えがあるから，正解はないけど，避難所ではよく考えて行動しないといけない。  大地震発生後，避難所となる学校では，地域の人々や市役所の担当者と協力して，いろいろなことを想定して決めていかなくてはならない。さらに，自分がやるべきこと，みんなで協力してやること，市役所の力を借りることなど，役割分担して取り組むことが大切である。 | ◆自分一人でできること，自分が今日できることをおさえつつ，避難所シミュレーションに移るとよい。  ◆自分で選択判断することが大切，判断には理由や責任を伴うことを感じさせたい。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | きょう土の伝統・文化と先人たち（オリエンテーション） | | | 教科書の  ページ | p.102～103および  地域教材等を活用※ |
| 配当時数 | 1時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし） | 活動時期 | 10月 | 学習指導要領の内容 | (4)アイ |

※この単元は，地域副読本等をご活用いただき，歴史を伝える建造物や遺跡，民俗芸能などの文化財，地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事など，調べる対象を県内に広げてご指導ください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) オリエンテーション | | | |  |
| ・わたしたちの身のまわりには，どのような古いものがあるでしょうか。 | 1 | ①それぞれが今までに気づいた古いものについて話し合う。  ・××には古いお祭りがある。  ・昔から続く芸能がある。  ・京都の古いお寺に行ったことがある，など。  ②地域の中で，今も残り伝わる史跡など，歴史を伝えるものを探し，かかわりの深い人物と結びつけながら関心をもつ。  めあて　県内には，どのような古いものが残されているでしょうか。また，きょう土のはってんにつくした人々は，どのようなことをしたのでしょうか。 | ◆まずは既有の知識を自由に話し合う。  ◆自分たちの住む県にも古くから残るものがあることに気づかせる。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 残したいもの 伝えたいもの | | | 教科書の  ページ | 地域教材等※ |
| 配当時数 | 9時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 10～11月 | 学習指導要領の内容 | (4)ア-(ｱ)(ｳ)，イ‐（ｱ） |

※この小単元は，地域副読本等をご活用いただき，歴史を伝える建造物や遺跡，民俗芸能などの文化財，地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事など，調べる対象を県内に広げてご指導ください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 県内の伝統や文化について，歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための取組などに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめることで，県内の文化財や年中行事の様子を捉え，人々の願いや努力を考え，表現することを通して，県内の文化財や年中行事は，地域の人々が受けついできたことや，それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や，地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることを考えようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための取組などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，県内の文化財や年中行事の様子を理解している。  ②調べたことを年表や文などにまとめ，県内の文化財や年中行事には地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①歴史的背景や現在に至る経過，保存や継承のための取組などに着目して，問いを見出し，県内の文化財や年中行事の様子について考え表現している。  ②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて，人々の願いや努力について考えたり，学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして，表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の文化財や伝統行事について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。  ②地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることなどを考えようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 県内の伝統・文化 | | | | |
| ・つかむ　県内にある古くから残るものを出し合って，学習問題をつくりましょう。 | 1 | ①県内にある古くから残るものについて話し合う。  ・古い建物がある。  ・昔からの芸能がある。  ・地域の人たちが大切にしている踊りがある。など  ②学習問題をつくり，学習計画を立てる。  学習問題　県内にある古くから残るものには，どのような願いがこめられ，どのように受けつがれてきたのでしょうか。 | ◆県内の文化財や年中行事の様子をとらえる。  ◆グループごとに調べたいものを話し合い，学習問題を立てる。 |  |
| (2)(3) 古くから残る県内の建物 | | | | |
| ・調べる　古くから残る建物は，どのように守られてきたのでしょうか。 | 2 | ①具体的な建物を一つ取り上げて調べる。  ・インターネット，図書館の本，博物館，などで調べる。  ・保存会など関係者に電話などでインタビューする。  ・可能であれば実物を見学する。  ②調べてわかったことをもとに，考えたことを話し合う。  ・建造年，建造の目的，改築などの変化。  ・保存会など関係者の取り組みについて。  地域には，古くから残る建物等の文化財があり，働く人々や地域の人々がその保存に取り組んでいる。 | ◆見学前に見ること，聞くことのポイントを明確にしておくように指導する（グループ活動にすることも考えられる）。  ◆建物を保存してきた人々の願いや努力に気づかせる。 |  |
| (4)(5) 古くから伝わる県内の芸のう | | | | |
| ・調べる　古くから伝わる芸のうは，どのように受けつがれてきたのでしょうか。 | 2 | ①具体的な一つの芸能を取り上げて詳しく調べてみる。  ・インターネット，図書館の本，博物館，などで調べる。  ・保存会など関係者に電話などでインタビューする。  ②写真や資料で確認しながら，わかったことをもとに，考えたことを話し合う。  ・時代による祭りの変化  ・祭りにおける人々の協力関係  ・地域の人たちの誇りについて，など。  地域には，古くから伝わる郷土芸能があり，歴史的経過により変化しつつ，地域の人々の誇りを支えてきた。 | ◆聞き取り前にポイントを明確にしておくように指導する（グループ活動にすることも考えられる）。  ◆芸能が継承されてきた歴史的背景，人々の協力関係に気づかせる。 |  |
| （6）(7) 昔から続く県内の祭り | | | | |
| ・調べる　昔から続く祭りには，どのような願いがこめられているのでしょうか。 | 2 | ①具体的な祭りを一つ取り上げて調べる。  ・インターネット，図書館の本，博物館，などで調べる。  ・保存会など関係者に電話などでインタビューする。  ②写真や資料を確認して，調べてわかったことをもとに，考えたことを話し合う。  ・祭りが行われる時期，目的，形態，担い手，祭りの変化について，など。  地域には，人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事があり，地域の人々の思いや願いを今に伝えるものであり，その保存に取り組んでいる人々の努力がある。 | ◆調べる前にポイントを明確にしておくように指導する（グループ活動にすることも考えられる）。  ◆お祭りを継承してきた人々の思いに気づかせることを通して，地域社会に対する誇りや愛情を養う。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②について説明をする。** |
| （8） 古くから残るものについて年表にまとめる | | | | |
| ・まとめる　県内にある古くから残るものについて，年表にまとめてみましょう。 | 1 | ①これまでに調べたことを発表して，年表にまとめる。  ・およその年代，重要な変化，その背景などがわかるように作成する。  ②つくった年表を見て，それぞれに共通することや違う点など，気づいたことを話し合う。  ・地域で残されてきたものにはどのようなものがあるか。  ・それらの古いものには，どのような思いや願いがこめられているか。  ・それらを保存・継承している人は，どのような工夫や努力をしているか。  県内の文化財や年中行事は，地域の人々が受け継いできたものであり，それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められている。 | ◆まなび方コーナーを参照して，年表のつくり方をおさえる。  ◆時代的な共通性についても考えさせる。 | 地域副読本等やノートを見ながら，学習をふり返り，県内に古くから残るものについて年表にまとめる。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |
| （9） 身近な地いきを見直そう | | | | |
| ・いかす　地いきに古くから残るものを受けつぐために，自分たちにできることを考えてみましょう。 | 1 | ①学習してきたことを生かして，地域に伝わる古くからあるものをどのように保存・継承していくか，自分たちにできることを考える。  ・積極的な担い手としてできること。  ・地域の一員としてできること。  ・新たな改善・創造の工夫。  ②実際に地域の行事を体験したり，課題解決のために情報を発信したりする取り組みを行う。  ・芸能クラブへの参加。  ・ポスターの作成。  地域に古くから残る文化財や祭り・芸能には，人々の思いが込められており，地域社会の一員としての自覚を持って保存・継承のために何ができるか考えることが重要である。 | ◆地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして，地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を養う。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 谷に囲まれた台地に水を引く | | | 教科書の  ページ | p.104～121 |
| 配当時数 | 12時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 11～12月 | 学習指導要領の内容 | (4)ア‐(ｲ)(ｳ)，イ‐(ｲ) |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 県内の先人の働きについて，当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめ，地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え，先人の働きを考え，表現することを通して，地域の発展に尽くした先人は，様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて，見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。  ②調べたことを年表や文などにまとめ，地域の発展に尽くした先人は，様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して，問いを見出し，地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。  ②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の先人の働きについて，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 石でできた橋 | | | | |
| ・つかむ　通潤橋を観察して，どのようなことがわかるかを話し合いましょう。  p.104～105 | 1 | ①通潤橋の写真を見て，気づいたことを発表する。  ・真ん中からいきよいよく水がふき出している。  ・石でできた橋だ。  ・橋の下が丸い形になっている。  ②なぜ，このような橋をつくったのか，考える。  ・布田保之助は，どうしてこのような橋をつくったのだろう。  ・水がふき出していることと何か関係があるのかな。  熊本県の白糸台地には，石を組んでつくった通潤橋という水を通すための橋がある。 | ◆通潤橋の写真を提示する。  ◆地図で，通潤橋の位置を確かめる。  ◆年表で約160年前ごろの時代を確認する。 |  |
| (2) 人々の願い | | | | |
| ・つかむ　白糸台地に住んでいた人々の願いをもとに学習問題をつくりましょう。  p.106～107 | 1 | ①白糸台地の地形に関する写真を読み取る。  ・深い谷に囲まれた台地だ。  ・水を確保するのが難しい。  ②白糸台地でくらす人々の願いを考える。  ・農業用水が十分でない。  ・飲み水でさえ確保できない。  ・何とかして水を引きたい。  ③学習問題をつくる。  学習問題　布田保之助は，どのようにして通潤橋をつくったのでしょうか。  ④学習問題について予想し，調べること・調べ方・まとめ方について話し合う。 | ◆水の確保が難しいと，生活にどのような影響があるかを考えさせる。  ◆学習問題の解決のために調べることを整理し，学習計画を立てる。 |  |
| (3)(4) 深い谷に囲まれた地形 | | | | |
| ・調べる　通潤橋のまわりはどのような地形なのでしょうか。  p.108～109 | 2 | ①白糸台地の地図や鳥瞰図から地形の様子を読み取る。  ・土地の高さが色で分かれている。  ・等高線が高さを表している。  ・白糸台地は，島のようだ。  ②白糸台地の地形の特徴を整理する。  ・用水路に沿って田畑や家が見られる。  ・北部よりも南部の方の崖が急になっている。  ・北部から南部に向けて，通潤橋を通る用水路が引かれている。  白糸台地の地形は，深い谷に囲まれており，まわりの川から水を取り入れることが難しい。 | ◆断面図の位置を確認する。  ◆「まなび方コーナー」を活用して等高線を確認し，読み取る。  ◆地図と鳥瞰図を関連づけ，地形の特徴を理解できるようにする。 |  |
| （5）用水路としての通潤橋 | | | | |
| ・調べる　用水路は，どのように白糸台地に水を送っているのでしょうか。  p.110～111 | 1 | ①人物年表から布田保之助について読み取る。  ・責任感が強い地域のリーダー  ・地域の人々のことを考えている。  ②イラスト地図から用水がどのように送られているかを読み取る。  通潤橋は用水路の一部で，北部の笹原川の水を白糸台地に送る役目を果たしている。 | ◆「まなび方コーナー」を活用して，現地で用水を調べる際のポイントを確認する。  ◆ことば「用水」を確認する。 |  |
| （6）水を送るくふう | | | | |
| ・調べる　深い谷に囲まれた台地に，どのように水を送ったのでしょうか。  p.112～113 | 1 | ①水を送るのに，どのような問題点があったかを整理する。  ・高いところへ水を送る工夫  ・十分な高さのある橋の建設  ・水を通す丈夫な管  ②布田保之助の働きや工夫を調べる。  ・水がふき上がる原理  ・石の管  布田保之助は，土地の高い白糸台地に水を送るために，水が落ちる力を利用すると共に，石で作った管で水を送る仕組みを取り入れた。 | ◆問題点をどのように解決したかを予想し，調べるようにする。 |  |
| （7）石の管と橋の形のくふう | | | | |
| ・調べる　水を送る管や橋の形には，どのようなくふうがあるのでしょうか。  p.114～115 | 1 | ①水を送る石の管の工夫を調べる。  ・何度も実験を繰り返した。  ・特別なしっくいでつないだ。  ②橋を丈夫にするための工夫を調べる。  ・アーチ型の石橋。  布田保之助は，橋を丈夫なアーチ型の石橋にすると共に，水がもれないように石の管を特別なしっくいでつなぐ仕組みを取り入れた。 | ◆問題点をどのように解決したかを予想し，調べるようにする。  ◆ことば「しっくい」を確認する。 |  |
| （8）石工たちのくふう | | | | |
| ・調べる　石工たちは，どのようにして通潤橋をつくったのでしょうか。  p.116～117 | 1 | ①人物年表から橋本勘五郎について調べる。  ・たくさんの橋をつくった。  ・明治政府に招かれた。  ②石工たちの工夫を調べる。  ・熊本城の石垣を参考にした。  ・石橋づくりの手順。  橋本勘五郎ら石工が中心になって通潤橋の建設が進められ，１年８か月で完成した。 | ◆ことば「石工」を確認する。  ◆アーチ型の石橋建設の手順などについては，VTRや模型などを活用して実感的に理解できるようにするとよい。 |  |
| (9) 土地利用の変化ときょう土の人々 | | | | |
| ・調べる　通潤橋ができて，人々のくらしはどのように変わったのでしょうか。  p.118～119 | 1 | ①白糸台地の写真や棒グラフ「通潤橋ができた前後の田の広がり方」から，土地利用の変化を読み取る。  ・用水ができたことで，田畑が広がった。  ・用水路ができて，田の面積は大きく増えた。  ②地域の人々の生活の向上と先人の働きや苦心を考える。  ・この地域にとってなくてはならないものだ。  ・用水路は今も使われている。  ・今も地域の人々が感謝している。  通潤橋と用水路の建設によって，白糸台地には水田が広がり，人々の生活は向上した。 | ◆用水路の完成と田の広がりを関連づけて考えられるようにする。  ◆用水路が，水の確保や収穫量の増加だけでなく，人々のくらしの向上につながっていることを考えられるようにする。 |  |
| (10)(11)(12) 紙しばいにまとめる | | | | |
| ・まとめる　調べてわかったことや考えたことを，紙しばいにまとめて発表しましょう。  p.120～121 | 3 | ①これまでに学習したことを紙芝居にまとめ，発表する。  ・白糸台地の人々の願いを表現しよう。  ・絵に合わせた会話を工夫して考え，初めて見たり聞いたりした人にもわかるようにしよう。  様々な苦心や工夫を重ねて用水を開発した先人の働きにより，人々の生活の向上への願いが実現し，地域が発展してきた。 | ◆「まなび方コーナー」を活用し，学習したことを紙芝居にまとめ，発表する手順を確認する。  ◆「学習問題」を確認し，これまでの問題解決の過程を作品にまとめる。  ◆「ことば」を参考にして，学習をふり返ることができるようにする。 | **※第10時は授業で行い，グループごとに紙芝居の構成や分担を決めるとともに，学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の説明をする。**  第11時は授業以外の場で行い，教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，各自分担した紙芝居の場面をつくる。【第11時（1時間）】  **※第11時で各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。**  **※第12時は授業で行い，グループごとの紙芝居の発表をする。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 特色ある地いきと人々のくらし（オリエンテーション） | | | 教科書の  ページ | p.150～151 |
| 配当時数 | 1時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動なし） | 活動時期 | 1月 | 学習指導要領の内容 | (5)アイ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) オリエンテーション | | | | |
| ・兵庫県には，どのような特色をもった地いきがあるのでしょうか。  p.150～151 | 1 | ①県の中で行ったことのあるまちや，よく知っているまちを発表し合う。  ・篠山市に，丹波立杭焼を見に行ったことがある。  ・姫路城に行ったことがある。  ・豊岡にコウノトリを見に行った。  ②それぞれの地域の写真を見て，特色や人々の様子について話し合う。  ・お城にはたくさんの人が来ている。  ・商店街には大きな看板がある。  ・冬には暖かな淡路島で花祭りが開かれる。  めあて　県内の特色ある地域について調べ，自分たちの地いきとくらべてみましょう。 | ◆楽しかった経験を引き出すようにする。  ◆地域によるくらしの様子の違いに目を向けさせる。  ◆自然や文化や歴史などの地域資源の特色に目を向けさせる。 |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 焼き物をつくるまち・丹波篠山市 | | | 教科書の  ページ | p.152～159 |
| 配当時数 | 7時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 1月 | 学習指導要領の内容 | (5)ア‐(ｱ)(ｲ)，イ‐(ｱ) |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 県内の特色ある地域の様子について，特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめ，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，表現することを通して，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，特色ある地域の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や文などにまとめ，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①特色ある地域の位置，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，問いを見出し，県内の特色ある地域の様子について考え表現している。  ②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり，自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の特色ある地域の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 焼き物のふるさと | | | | |
| ・つかむ　丹波篠山市の焼き物について，気づいたことを話し合い，学習問題をつくりましょう。  p.152～153 | 1 | ①丹波篠山市今田町で受け継がれてきた焼き物づくりについて，手紙・写真・地図などの資料から，気づいたことを話し合う。  ・丹波篠山市今田町には，丹波立杭焼の窯元がたくさんある。  ・とても大きなのぼりがまがあり，街の宝になっている。  ・丹波立杭焼は，給食の食器にも使われている。  ②丹波篠山市の焼き物づくりについて，気づいたことや疑問に思うことから学習問題をつくり，予想を話し合う。  学習問題　丹波篠山市では，なぜ焼き物づくりがさかんになり，どのように焼き物をまちづくりに生かしているのでしょうか。 | ◆のぼりがまの写真から，つくられているものを予想させる。  ◆焼き物づくりについて，資料からわかることを発表させる。  ◆地図から焼き物づくりがさかんになった理由に目を向けさせる。  ◆p.153側注を参考に，調べることや調べ方などを整理させる。 |  |
| (2)(3) 原料の土と焼きがま | | | | |
| ・調べる　丹波篠山市今田町では，なぜ焼き物づくりがさかんなのでしょうか。  p.154～155 | 2 | ①航空写真や窯元の分布図から，焼き物に必要な土や燃料はどのように手に入れているか予想する。  ・山に囲まれているから，そこから土や木を取ってくるのではないか。  ・川の水は関係あるのかな。  ②土や燃料となる木の入手方法について，写真や文章をもとに調べ，焼き物づくりがさかんなわけを考える。  ・地元や隣町の土を原料に使う。  ・山に囲まれ，燃料の木が手に入りやすい。  ・山あいに多数の窯元が広がっている。  ③「かま元の大上さんの話」をもとに，のぼりがまの歴史やよさを調べる。  ・約400年前に伝わり，今も使われている。  ・短い時間で大量の焼き物をつくることができる。  山に囲まれた丹波篠山市今田町は，原料の土や燃料の木が手に入りやすく，朝鮮半島から伝わった技術を生かして焼き物づくりがさかんになった｡ | ◆航空写真や地図，窯元の分布図から，土や樹木が豊富なことに気づかせる。  ◆のぼりがまの距離を実際に歩き，長さを体感させるとよい。  ◆のぼりがまのしくみの工夫に目を向けさせる。 |  |
| (4)(5) 丹波立杭焼をつくる | | | | |
| ・調べる　丹波立杭焼は，どのようにしてつくられるのでしょうか。  p.156～157 | 2 | ①写真をもとに，丹波立杭焼ができるまでの工程を調べ，難しそうなところや疑問に思うことなどを話し合う。  ・最初に粘土をこねて，形をつくる。  ・乾かした後に電気がまで一度焼く。  ・うわ薬をかけて，最後にのぼりがまで焼く。  ②窯元に聞きたいことを整理する。  ・焼き物づくりを始めたきっかけ  ・一人前になるまでの期間  ・焼き物づくりのよさや魅力  ③インタビューや窯元からの手紙などからわかったことや感じたことを発表し合う。  丹波立杭焼は，職人の技術によって手作業でつくられており，丹波篠山市今田町には焼き物の伝統的な技術を受けつぐ人たちがたくさんいる。 | ◆工程のわかるビデオや写真を活用して伝統的な技が必要な個所に目を向けさせる。  ◆可能であれば見学をし，実際にインタビューするとよい。  ◆職人の技だけでなく，焼き物づくりの喜びやまちづくりへの思いに気づかせる。 |  |
| (6) 丹波立杭焼とまちづくり | | | | |
| ・調べる　丹波篠山市の人々は，丹波立杭焼をどのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。  p.158～159 | 1 | ①陶器まつりについて調べる。  ・毎年10月に行われ，約10万人が来る。  ・窯元の人も張り切っている。  ・陶の郷では，体験をしたり，特産品を買ったりできる。  ②「かま元での直売」の写真をもとに，陶器まつりを開くまちの人たちの気持ちや集まる人たちの思いについて話し合う。  ・窯元の人は力を入れて作品づくりをする。  ・丹波立杭焼が広まるといいと思う。  ・年に一度の楽しみなのではないかな。  ③丹波立杭焼の技術を伝え，よさを知ってもらうためのまちの人たちの取り組みについて考える。  ・陶芸教室での体験は焼き物に親しみを持つことにつながる。  ・特産品の販売は，丹波立杭焼の宣伝になる。  丹波篠山市今田町では，陶芸祭りや陶の郷などの丹波立杭焼にかかわる取り組みを，まちづくりに生かしている。 | ◆伝統工芸館のパンフレットやイベントのチラシなどを活用して，特産品のよさを広く紹介する取り組みに目を向けさせる。ホームページを活用するのもよい。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②について説明をする。** |
| （7）ノートにまとめる | | | | |
| ・まとめる　これまで調べてきたことを整理して，学習問題についてまとめましょう。  p.159 | 1 | ①調べてきたことを振り返り，絵を使いながらノートにまとめる。  ・焼き物づくりが盛んになったわけ  ・丹波立杭焼を生かす取り組み  ②学習を通して，わかったことや考えたことを話し合う。  ・伝統を生かした焼き物づくりが続けられている。  ・焼き物を生かしたまちづくりが進められている。  ・いつまでも焼き物の伝統を大切にしたいという人がたくさんいる。  県にある丹波篠山市今田町は，伝統的な技術を生かした産業がさかんで，人々がその伝統や技術を大切にし，またその良さを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 | ◆ノートにまとめる前に，どのような項目(観点)が必要か話し合って決めるようにする。  ◆話し合いでは，どんな事実をもとに考えたことかを発現させる。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，学習問題についてノートにまとめる。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 世界とつながるわたしたちの県 | | | 教科書の  ページ | p.178～185 |
| 配当時数 | 7時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 2月 | 学習指導要領の内容 | (5)ア‐(ｱ)(ｲ)，イ‐(ｱ) |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 県内の特色ある地域の様子について，特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめ，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，表現することを通して，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，特色ある地域の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や文などにまとめ，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①特色ある地域の位置，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，問いを見出し，県内の特色ある地域の様子について考え表現している。  ②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり，自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の特色ある地域の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

※この小単元では，県内の「国際交流に取り組んでいる地域」について学習します。『新編 新しい社会3・4下』は現行の学習指導要領にもとづいているため，県内の様々な地域を取り上げていますが，新学習指導要領の主旨にもとづき，調べる対象は県内の一つの地域にしぼるようご留意ください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) ほかの地いきや国とのつながり | | | | |
| ・つかむ　兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて話し合い，学習問題をつくりましょう。  p.178～179 | 1 | ①教科書の写真から，兵庫県とほかの地域や国とのつながりを予想し合う。  ・ 外国からたくさんの観光客が来ている。  ・神戸港には外国からの船が来ている。  ・ 豊岡でつくられたお米が，他の地域でも売られている。  ②兵庫県と他の地域や国とはどのようなつながりがあるか疑問に思うことをもとに学習問題をつくり，予想を話し合う。  学習問題　兵庫県は，ほかの地いきや国と，どのようにつながっているのでしょうか。 | ◆外国から観光客が来ていること，反対に兵庫県でつくられたものが他の地域で売られていることなどをとらえさせる。  ◆交通機関の働きに目を向けさせる。  ◆p.179側注を参考にさせる。 |  |
| (2)(3)港がある神戸 | | | | |
| ・調べる　港がある神戸は，世界とどうつながっているのでしょうか。  p.180～181 | 2 | ①神戸港の写真や世界地図から，神戸と外国とのつながりについて予想し話し合う。  ・ コンテナの積み下ろしに便利なように海岸線が直線になっている。  ・たくさんの国や地域が，神戸港とつながっている。  ②「みなと総局の永峰さんの話」をもとに，神戸港と世界とのつながりを調べ，まとめる。  ・ 世界有数の貿易港  ・年間に約7000隻の外国の貨物が出入りし，約250万個のコンテナを扱っている。  ・神戸港は1000年以上の歴史があり，約140年前からは欧米との貿易も始まった。  神戸港は，多くの貨物船が出入りする有名な貿易港で，わたしたちの県は，古くから世界とつながっている。 | ◆港の海岸線の特徴や岸壁に並ぶコンテナに着目させる。  ◆外国とのつながりを示す史跡に目を向けさせる。  ◆神戸港のホームページから，副教材「海と港が仕事の舞台―神戸港―」をダウンロードすることができる。 |  |
| (4)(5) 兵庫県と世界とのつながり | | | | |
| ・調べる　兵庫県は，世界とどのようにつながっているのでしょうか。  p.182～183 | 2 | ①兵庫県と世界の国々との貿易以外のつながりについて調べる。  ・ 中国とのつながりを示す中華街  ・ 姫路城とフランスのシャンティイ城，明石海峡大橋とデンマークのグレートベルト橋などの姉妹関係  ・ ロシアの協力でよみがえったコウノトリ  ②兵庫県と姉妹関係にある国の位置と，国旗を調べ，世界とどのようにつながっているか考える。  ・ アメリカやブラジル，フランスなどいろいろな国と姉妹・友好提携を結んでいる。  ・ どの国にも特徴的な国旗がある。  ・兵庫県の特色やよさが，世界のいろいろな国とつながっている。  兵庫県は，姫路城やコウノトリ，明石海峡大橋など，それぞれの地域の特色を生かして世界の様々な国と交流を行っている。 | ◆写真から，城や橋など，外国との様々な姉妹関係があることに気づかせる。  ◆外国との交流場面では，お互いの国旗を尊重し合うことが大切であることに気づかせる。 |  |
| (6)（7） わたしたちの兵庫県 | | | | |
| ・まとめる　兵庫県とほかの地いきや国とのつながりについて，調べてきたことを整理してノートにまとめましょう。  p.184～185 | 2 | ①空路・航路の地図で兵庫県とつながっている都市を調べ，気づいたことを話し合う。  ・ 航空路で北海道から沖縄県まで結ばれている。  ・ フェリーで結ばれている都市もある。  ②これからの兵庫県について話し合い，自分の考えを文章にまとめる。  ・ 歴史や文化を生かした観光のまちづくりを大切にしたい。  ・ コウノトリなどを育む自然環境の豊かなまちづくりを大切にしたい。  ・他の地域や国とのつながりを大切にして，魅力のある県にしていきたい。  兵庫県の人々の生活や産業は，様々な面で国内の他地域や外国と結びついている。 | ◆空路と航路が結ぶ地域や都市の違いにも目を向けさせる。  ◆学習成果を生かして，自分なりの未来像を短い文にまとめられるようにする。 | **※第6時は授業で行い，交通や交流活動におけるほかの地域とのつながりについて学習するとともに，学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時について説明をする。**  第7時は授業以外の場で行い，教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，自分の考えをノートにまとめる。【第7時（1時間）】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | コウノトリを育てるまち・豊岡市  ▼城を守るまち・姫路市（p.168～175）とどちらかを選んで学習しましょう。 | | | 教科書の  ページ | p.160～167 |
| 配当時数 | 7時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 2～3月 | 学習指導要領の内容 | (5)ア‐(ｱ)(ｲ)，イ‐(ｱ) |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小単元の目標 | | 県内の特色ある地域の様子について，特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめ，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，表現することを通して，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 小単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，特色ある地域の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や文などにまとめ，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①特色ある地域の位置，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，問いを見出し，県内の特色ある地域の様子について考え表現している。  ②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり，自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の特色ある地域の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) コウノトリのまち | | | | |
| ・つかむ　豊岡市が，コウノトリで有名なわけを話し合い，学習問題をつくりましょう。  p.160～161 | 1 | ①写真や文章から，豊岡市がコウノトリで有名なわけを読み取り，発表する。  ・ 豊岡市は，絶滅したコウノトリを自然に帰すことに成功した。  ②３の写真を見て，豊岡市の土地の様子について話し合う。  ・ 豊岡市は，山に囲まれていたり，大きな川が流れていたりする自然が豊かなところだ。  ・ 川のまわりには田んぼが広がっている。  ・コウノトリにとって暮らしやすいところなのだろうか。  ③コウノトリがよみがえった理由や工夫など，疑問に思うことから学習問題をつくり，予想を話し合う。  学習問題　たくさんの人たちに親しまれているコウノトリは，どのようにして守られたり，生かされたりしているのでしょうか。 | ◆豊岡市がどこにあるか地図帳で確かめさせる。  ◆写真から，コウノトリに対する人々の気持ち，土地の様子を読み取らせる。  ◆p.161の表を参考に，調べることや調べ方などを整理させる。 |  |
| (2)(3) よみがえったコウノトリ | | | | |
| ・調べる　コウノトリを自然に帰す取り組みは，いつごろから行われたのでしょうか。  p.162～163 | 2 | ①自然放鳥の記念式典の写真をもとに，人々の気持ちを考える。  ・みんなとてもうれしそう。  ・豊岡市の人々はコウノトリを大切にしていると思う。  ②絶滅したコウノトリをよみがえらせる取り組みを，年表や文章をもとに調べる。  ・絶滅前から保護して育てていた。  ・ロシアから6羽のコウノトリが送られた。  ・1992年からは自然に帰す取り組みをし，2005年に自然放鳥をした。  ③コウノトリの郷公園は，どんなことをしているか調べる。  ・ 野生のコウノトリが絶滅する前から人工飼育に取り組んでいた。  ・ コウノトリを育て，自然に帰す取り組みをしている。  ・今は公園の外でも50羽以上の野生のコウノトリが生活している。  豊岡市では，30年以上も前からコウノトリをよみがえらせる取り組みをし，今は，コウノトリの郷公園を中心に，たくさんのコウノトリを飼育している。 | ◆コウノトリをよみがえらせるためには，他の国の協力や人々の長い間の努力が必要だったことを読み取らせる。 |  |
| (4)(5) コウノトリを守り育てる | | | | |
| ・調べる　豊岡市の人々は，コウノトリを守り育てるために，どんなことをしているのでしょうか。  p.164～165 | 2 | ①写真や文章からまちの人たちとコウノトリとのつながりについて読み取る。  ・トラックの運転手さんは，コウノトリが農道を渡るまで待っている。  ・コウノトリのために，農薬を減らして米作りをしている。  ②コウノトリを守り育てる工夫について知りたいことを整理し，市役所の方にメールや手紙で質問する。  ・ 田んぼにたくさんの生き物がいるようにする。  ・ 地域の人や農家の人が湿地やビオトープをつくっている。  ・小学生がコウノトリKIDSクラブに参加し，他の県とも交流をしている。  ③まちの人たちが，コウノトリについてどう思っているか話し合う。  ・ 自然環境を大切にして，コウノトリと共生しようとしている。  豊岡市では，コウノトリを守り育てるために，人々が協力してコウノトリがくらしやすい環境をつくっている。 | ◆人々がコウノトリとどのように接しているのかに目を向けさせ，人々がコウノトリを保護し，共に生きている様子を読み取らせる。 |  |
| (6) コウノトリを生かす | | | | |
| ・調べる　豊岡市の人々は，コウノトリをどのように生かしているのでしょうか。  p.166～167 | 1 | ①スーパーマーケットや朝市の写真から「コウノトリの舞」が売られていることを知り，どのようなものか調べる。  ・ 減農薬や無農薬の農産物に「コウノトリの舞」という印を付けている。  ②「コウノトリの舞」に，どのような願いがあるか考える。  ・ 安全で安心な農作物ということを多くの人に知ってほしい。  ・多くの人に買ってほしい。  豊岡市の人々は，コウノトリを大切にし，地域の特産品などに生かしている。 | ◆コウノトリが自然の中で生きているのは環境がよいからだというイメージを，特産物づくりに活用していることを考えさせる。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②について説明をする。** |
| （7）ノートにまとめる | | | | |
| ・まとめる　これまで調べてきたことを整理して，学習問題についてまとめましょう。  p.167 | 1 | ①調べてきたことを振り返り，絵を使いながらノートにまとめる。  ・コウノトリを守る取り組み。  ・コウノトリを生かす取り組み。  ②学習を通して，わかったことや考えたことを話し合う。  ・豊岡市の人々は，力を合わせてコウノトリを守り育てている。  ・コウノトリを生かしたまちづくりが進められている。  ・コウノトリが生きる自然を大切にしていきたい。  豊岡市は，自然環境を生かしてコウノトリを守り育てるとともに，コウノトリを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 | ◆ノートにまとめる前に，どのような項目(観点)が必要か話し合って決めるようにする。  ◆話し合いでは，どんな事実をもとに考えたことかを発言させる。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，学習問題についてノートにまとめる。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 小単元名 | 城を守るまち・姫路市  ▼コウノトリを育てるまち・豊岡市（p.160～167）とどちらかを選んで学習しましょう。 | | | 教科書の  ページ | p.168～175 |
| 配当時数 | 7時間  （学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間） | 活動時期 | 2～3月 | 学習指導要領の内容 | (5)ア‐(ｱ)(ｲ)，イ‐(ｱ) |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | 県内の特色ある地域の様子について，特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめ，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，表現することを通して，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 |
| 単元の  観点別  評価規準 | 知識・技能 | ①特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，特色ある地域の様子を理解している。  ②調べたことを白地図や文などにまとめ，県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 |
| 思考・判断・表現 | ①特色ある地域の位置，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，問いを見出し，県内の特色ある地域の様子について考え表現している。  ②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり，自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え，適切に表現している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①県内の特色ある地域の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 城のまち | | | | |
| ・つかむ　城のある姫路市について，知っていることやふしぎに思うことを話し合い，学習問題をつくりましょう。  p.168～169 | 1 | ①姫路市に行ったときのことや，知っていることを出し合う。  ・ 県の西側にあって瀬戸内海に面している。  ・ 姫路城は世界文化遺産だ。  ・外国からもたくさんの人が観光に来ていた。  ②姫路にどんな宝があるか確かめる。  ・ お城祭りやゆかた祭りがある。  ③姫路城について不思議に思うことから学習問題をつくり，予想を話し合う。  ・どのように守られているのだろう。  ・どのようなことに生かされているのだろう。  ・観光にも生かされているのではないかな。  学習問題　たくさんの人たちに親しまれている姫路城は，どのようにして守られたり，生かされたりしているのでしょうか。 | ◆姫路市がどこにあるか地図帳で確かめさせる。  ◆姫路城に目を向け，調べたいことを発表させる。  ◆日本にある他の世界遺産について紹介する。  ◆p.169側注を参考に，調べることや調べ方などを整理させる。 |  |
| (2)(3) 姫路城を守る取り組み | | | | |
| ・調べる　まちの人たちは，姫路城をどのように守ってきたのでしょうか。  p.170～171 | 2 | ①写真や年表などから，姫路城がどのように守られてきたのか調べる。  ・中村重遠の努力で，130年以上前に国が保存を決めた。  ・ 明治，昭和，平成にも修理が行われている。  ・今も，大切に守る取り組みが続いている。  ②「しっくい職人の柴田さんの話」から，城を守り伝える人は，どんな気持ちで働いているのか考え，話し合う。  ・ 大切な宝を，未来に伝えたい。  姫路城は，昔から地域の人々によって守られ，世界文化遺産に登録された後も城を守る取り組みが続けられている。 | ◆インターネットや図書資料，地域の古老の話なども活用し，年代ごとにまとめさせる。  ◆城の保護にかかわる人の話から，その思いを読み取らせる。 |  |
| (4)(5) 姫路城とまちづくり | | | | |
| ・調べる　姫路城を生かした活動はどのように行われているのでしょうか。  p.172～173 | 2 | ①写真やグラフを見て，気づいたことを出し合う。  ・姫路城を説明してくれるお年寄りや外国語ガイドをしてくれるボランティアの人がいる。  ・ 2005年には，外国語ボランティアが，4500人近くの観光客を案内している。  ・多くの市民が城とかかわっている。  ②姫路城を生かした取り組みについて，写真や文章から調べる。  ・小学生も姫路城の清掃に加わっている。  ・観光ループバスも走り，観光に生かされている。  ・ 映画など文化に生かされている。  姫路城の良さを外国語で伝えるボランティアや観光ループバスの運行など，地域の人たちは姫路城を生かす活動に取り組んでいる。 | ◆人々が城とどのようにかかわっているかに目を向けさせる。  ◆人々が城をどのように活用しているかに目を向けさせる。 |  |
| (6) 世界の宝　姫路城 | | | | |
| ・調べる　姫路城は，なぜ世界文化遺産になったのでしょうか。  p.174～175 | 1 | ①姫路城が世界文化遺産になったわけを予想する。  ・歴史があるから。  ・何度も修理しながら，今も大切にされているから。  ・世界にはないお城だから。  ②「姫路城管理事務所の石川さんの話」をもとに，姫路城が世界文化遺産になった理由を調べ，話し合う。  ・木造建築としての美しさ。  ・やぐら，門，土の塀，石垣，堀などが良好に保存されている。  ・日本独自の城のつくり方をよく表している。  ③姫路城のひみつを絵カードなどにまとめる。  姫路城は，木造建築としての美しさや完成度の高さが認められ，世界文化遺産に選ばれた。 | ◆白神山地や厳島神社など，国内の世界遺産を写真で紹介し，姫路城はなぜ選ばれたのか考えさせる。  ◆カードは，グループで分担し，一人一枚程度にまとめさせるとよい。 | **※学習のまとめ方について，何を基に，どのようにまとめるのか，次時の①②について説明をする。** |
| （7）ノートにまとめる | | | | |
| ・まとめる　これまで調べてきたことを整理して，学習問題についてまとめましょう。  p.175 | 1 | ①調べてきたことを振り返り，絵を使いながらノートにまとめる。  ・姫路城を守る取り組み  ・姫路城を生かす取り組み  ②学習を通して，わかったことや考えたことを話し合う。  ・姫路の人々は，力を合わせて姫路城を守っている。  ・姫路城を生かしたまちづくりが進められている。  ・世界の宝「姫路城」を大切に守り，未来に伝えていきたい。  姫路市は，世界文化遺産の姫路城を守り，姫路城を生かしたまちづくりに取り組んでいる。 | ◆ノートにまとめる前に，どのような項目(観点)が必要か話し合って決めるようにする。  ◆話し合いでは，どんな事実をもとに考えたことかを発言させる。 | 教科書やノートを見ながら，学習をふり返り，学習問題についてノートにまとめる。【1時間】  **※各自まとめたものを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |

（学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 本時のめあて | 時数 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
| (1) 特色ある地いきのよさを伝えよう | | | | |
| ・いかす　県内の特色ある地いきについて整理し，そのよさをカードにかいてみんなに伝えてみましょう。  p.176～177 | 1 | ①県内の特色ある地いきについて，調べたことをもとに，特色がわかるように表にまとめる。  ・ 宝物  ・地域の特色  ・守るための活動（人々の願い）  ②それぞれの違いや共通点について，比べて考えたことを発表し合う。  ・伝統的な産業，伝統文化など，それぞれの地域に特色やまちの宝がある。  ・ どの地域でも，特色やまちの宝を生かしたまちづくりに取り組んでいる。  ③特色ある地域のよさを伝えるカードをつくり，相互に発表したり，校内外に掲示したりする。  丹波立杭焼や姫路城（豊岡市のコウノトリ）は，地域の特色を生かしてつくられたり守られたりしており，わたしたちの県の素晴らしい特色である。 | ◆地域ごとに登場したキーワードを振り返り，簡潔な表にまとめさせる。  ◆自分たちの地域とも比較させながら，特色などをまとめさせる。  ◆学級内の発表だけにとどまらず，校内または学外施設での掲示なども検討したい。 | 学習をふり返り，県内の特色ある地いきについて，そのよさをカードに書く。【1時間】  **※各自で作成したカードを提出させ，一人一人の学習状況を確認する。** |